

まちづくりの生がします

視察調査報告

6月定例会終了
後、行政視察調査
を行いました。
議員1人当たり
に支給される旅費
は最大6万円。

調査地

石川県北町

株式会社セイツ

石川県羽咋市

農業法人株式会社

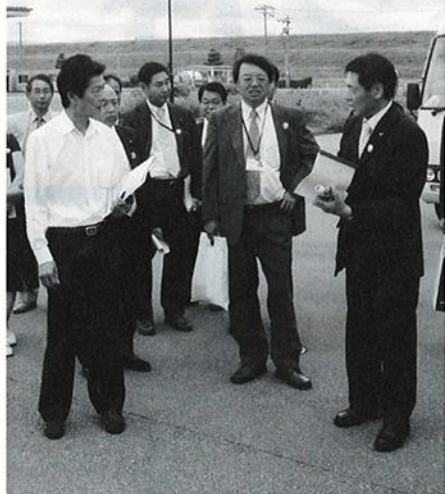
神子の里

調査日

7月27日～29日

調査の目的

①「恵みの里構想」の核である農産物加工施設および道の駅の運営をどのような観点から押し進めるか。



セイツにて

②限界集落から脱却させた市役所の取り組みを参考に、本町が取り組もうとしている地域自治組織の在り方を考える。

株式会社 セイツ

創業時からの考え方「日本農業を元気にする」を守り、輸入野菜は使用しない。北海道から沖縄まで全国に契約農家を持ち、スーパー（30%）や外食産業（35%）に提供している。また、カット野菜

（35%）は給食施設などに供給。土づくりから元氣な野菜（高品質野菜）が生まれるという考えから農業大学と連携をして27項目の土壌分析を実施し、肥料・農薬の使用量を適正化しており、品質管理は毎日試食チェックをして産地にフィードバックしている。キャベツの例で1玉当たりの重量を上げて通常4.5～5.5tの収量を5.5～6.5tに増量する。契約農家の最低保証価格は米価を下回らない反当り25万円としている（人件費は夫婦で年収800万円として、時給1818円を算出）。カット野菜工場では殺菌効果やビタミン損失を防ぎ野菜を美味しく仕上げる高温スチーム加工機を国内

工場から出る野菜残さは耕畜連携して堆肥と一緒にペレット化し契約農家に安価で提供している。社長はカット機械ばかりではなく人の手でカットするお母さんの心、まな板と包丁の心の大切さを重要視しておられた。本町の農産物加工所の方向性を再考させられる視察であった。

農業法人株式会社神子の里

神子原地区3集落は高

血液を循環させる、集落を元気にするには何か新しいものを創り出すことと、色々なことを仕掛けていた。取り組みとしては、農家と農地をセットにし「空き農家・農地情報バンク」を設け、石川県以外から11家族が入村、また、大学生が村で研修、宿泊できるように「烏帽子親農家制度」を新設して年2回、夏と冬に受け入れられている。農産物はスケールの大きな取り組みによりブランド化に成功。東京の富裕層に地元産の米を高価で限定販売する。また、その米を使った酒も高値で販売するなど、自分たちで育てた農産物・加工品を自由に価格設定できるようにしている。その結果、農家所得は向上し、年間売り上げは6800万円にも上る。過疎にあえぐ村に希望を与えIJUターンによって人口も増加し、高齢化率に歯止めがかかった。二人の職員の知恵、行動力、住民をその気に

傷を治すためには新しい

は、全国的にも非常に先進的な取り組みをされている地区と感じる。本町のまちづくりにもよいことは積極的に取り入れ、提言していきたい。



羽咋市職員からの説明

まとめ

今回視察した2地区

は、全国的にも非常に先進的な取り組みをされている地区と感じる。本町のまちづくりにもよいことは積極的に取り入れ、提言していきたい。